光葉同窓会メールマガジン

＜2024年10月号＞

208 号 2024.10.01 配信

10 月になると、大学は後期を迎えます。静かだったキャンパスに学生たちが戻ってきて、新学期を迎えるこの頃は何だかワクワクします。とは言え、学生時代の私は、この時期が嫌いでした。なぜなら、日暮れが早くなるからでした。私は夏季休暇のほとんどを帰省先の鹿児島で過ごし、後期が始まる直前に東京に戻ってきていました。9 月末の東京は、鹿児島と比べると、とても日暮れが早く、「寂しいなぁ」と感じたことを今でもよく覚えています。

但し、夜の時間が徐々に長くなっていく後期は、学生にとって勉強により時間を使える季節でもあります。そして、同窓会は、11 月の秋桜祭の参加に向けて本格的な準備にとりかかります。暑かった夏が過ぎ、さわやかな時期です。充実した日々を過ごしましょう。(常任委員 高味み鈴)

◇2024 年度　第 32 回秋桜祭のご案内

今年のテーマ「Spread your wings」

開催日時：11 月 9 日(土)・10 日(日)　　10 時～15 時 30 分

場　　所：大学３号館 1 階　1S02・1S03 教室

光葉同窓会は、「第 2 緞帳物語」の展示、支部・同窓生有志によるバザー、子どもコーナー、支部から寄せられた名産品、手作り品コーナーが出店します。ぜひお立ち寄りください。

秋桜祭開催当日(11 月 9 日、10 日、または両日)のお手伝いボランティアスタッフを募集中！

問い合わせ先　光葉同窓会事務局　TEL:03－3421－7713

◇幹事の役割

６月 15 日の幹事会では、学年会・クラス会・ゼミ会を開催する場合、幹事としてどのような選択肢があるかをシュミレーションゲームでグループごとに話し合い、その後、本部常任委員からの説明や提案を通して、幹事としての役割を確認しました。

幹事は卒業時に以前はクラスから二人、現在は学科もしくはクラスから選出され、本部や同級生とのパイプ役を担っています。５人以上が参加する学年会・クラス会・ゼミ会開催には、幹事から本部事務局に 1 万円の活動支援金の申請ができます。また、学年会とクラス会開催案内状の宛名ラベルの申請も可能で、開催報告は会報に寄稿します。

皆さんは同級生の幹事の方をご存じですか。幹事が分からなかったり、幹事への連絡先などを確認したい場合は、同窓会事務局までお問い合わせください。

◇支部会開催予定

10／5(土) 富山県支部、鹿児島県支部	10／6(日) 渋谷・目黒支部、佐賀県支部、鳥取県支部
10／19(土) 東京都多摩東支部	10／20(日) 山梨県支部、岡山県支部
10／24(木) 愛知県支部	10／26(土) 埼玉県支部
10／27(日) 新潟県支部、熊本県支部	

◇ホームカミングデーのご案内　11 月９日(土)11 時～13 時 30 分

対象の学年の方にはご案内状が送付されています。事前申込制です。ご参加には封書内のハガキにて 10 月 15 日(火)までにご回答をお願いします。

広げよう光の葉

村里　智子さん　　1981 年　食物学科卒業

「全ての道は・・・」

私は現在、日本小児臨床アレルギー学会認定の小児アレルギーエデュケーター（通称：PAE）の資格を生かし、病院の管理栄養士として小児科で食物アレルギーの診療に携わっています。しかし、短期大学部食物学科の卒業を間近にした頃は、栄養士という職業は自分には向いていないと感じ、４年制への編入を強く勧めた母の言葉に反して、地元に戻って地方銀行に就職しました。

実は母も昭和女子大学の卒業生で、私が同じ学校を選んだことをとても喜んで、母自身が叶わなかったことを私にやらせてあげようとしていたようです。

現在の自分を考えると遠回りをしたかのように見えますが、家族にも恵まれ、「食物アレルギー」というライフワークに出合って、日々充実した生活を送っていることはすべて歩んできた道に通じていると思います。

社会人として多くのことを教わった銀行員生活は言うまでもなく、母も私が歩んできた道に満足してくれています。母は 90 歳を過ぎて、現在は介護施設で生活していますが、今でも一緒に『祝歌』を口ずさむことができるのは、私たち母娘にとってこの上ない喜びです。

人生の転機は双子の長男と次男が 3 歳になる頃、将来的に資格を生かして働きたいと強く思ったことでした。子育てをしていると栄養のことや食事がいかに大事かを実感し、食物学科卒業時に栄養士の資格を取得できていたことから、岩手県栄養士会に入会して活動を始めました。いろいろな活動に参加していく中、臨時で働く道が開かれ、家族の理解と協力のもと、管理栄養士の国家試験にも合格できました。その後縁あって子どもの専門病院に就職し、10 年間いろいろな疾病を持つ子ども達の栄養管理を行い、家族との関わりの中から多くのことを学びました。特に重症心身障害児とその家族には心動かされることが多く、この経験の後に子どもがうまれていたら、間違いなく私の子育ては違うものになったと確信するほど人生観が変わりました。現在は再雇用の形で働きながら、年間５～６回程度講演会の講師を務めています。講演内容は食物アレルギーに留まらず、小児肥満や食育など多岐にわたり、それらの活動が評価され、昨年は岩手県保健医療功労者表彰をいただき、大きな節目となりました。仕事が趣味になってしまっている現状から上手に抜け出し、若手にバトンを渡した後の自分らしい生き方の模索をすることが一番の課題だと感じる昨今です。これからも可能な限り、接する機会の多い子育て真っただ中のお母さん達に、子ども達にとっては唯一無二の存在であり、自分以外にはだれも代わることができない役目を果たしているという自覚と自信を持って子どもに相対していけるよう応援していきたいと思っています。校歌３番「あらゆるものを育みて、育てあげしは女性なり」、私自身これからも肝に銘じて励んで行きたい言葉です。